

筑波大学1年生の食生活調査：平成9及び10年度の結果

齊藤 慎一

Dietary Habits in University Freshmen: 1997 and 1998

Shinichi Saitoh

Abstract

We have previously suggested that both nutritional education and instruction of regular sport activity to university freshmen were needed for their better health, because < 20% tended to be lack of breakfast, and about 70% of students had no daily sport activity (Aida et al 1993). This study was conducted to compare the results of dietary habits questionnaires for 1,244 students enrolled 1997 (male:324, female:263) and 1998 (male:448, female:209) with those of 1992. The results showed that there were no differences in dietary habits of university freshmen between 1992 and 1997 or 1998.

1. はじめに

国民栄養調査の結果によれば、1人暮らしをしている青年期の男女とも、欠食回数が他の年代に比べて高いことが明かにされている¹⁾。この理由については十分分かっているわけではないが、現代の若者の生活実態から以下の様なことが考えられる。その1は、1人暮らしで経済的に逼迫すると簡単に食事を抜いてしまうことである。飽食時代といわれる現代では、幼い時から食べられないという経験がないので、食べないと餓死するという心配とは無縁なのであろう。その2は、調理経験の欠如による欠食が挙げられる。これには、家庭で調理することが少なくなったことが関係するかもしれない。また現在1人暮らしといっても、様々な調理済み食品や冷凍食品、またコンビニエンスストアの利用など、食事面で便利な生活ができるので、自分で作る必要が極端に

少なくなったことによるかもしれない。

一方、大学生の生活調査から、近年の大学生の大半が調理に無関心で、自炊するだけの調理経験が少なく、調理技術が未熟であることなども報告されている²⁻⁵⁾。実際、大学生の大部分は、誰かが食事を作ってくれるという環境で育ち、料理をするのは小・中・高等学校の家庭科の授業か、ときどきの親の手伝い程度であると考えられる。ところで、筑波大学の学生のほとんどは、親元を離れ、「つくば」という見知らぬ地にやってくる。そして、大学の宿舍、あるいは大学周辺のアパートで1人暮らしを始める。したがって、それまでの家庭生活とは違い、待っていれば食事が出てくるという状況が当たり前であったのが、1人暮らしでは食事を自分でどうにかしなければならぬ。このように、筑波大学の新生人も、上で述べた一般大学生と同様に、1人暮らしと親元での食生活のギャップが大きいと考えら

れる。

平成4年6月には、体育専門学群以外の新1年生1,928名を対象として、ライフスタイル（特に食事内容と食事時刻、スポーツ活動時間など）に関するアンケート調査を行なった⁸⁾。しかし、平成4年と最近（平成9年・10年）の5年間では日本の経済状況が著しく異なるため、その影響により学生の食事内容も違いがみられるのではないかと考えられる。今回、あらためてこの点について現在の傾向を明らかにしようとして調査を行った。

2. 方 法

1) 調査方法及び対象

調査は質問紙調査法を用い、平成9年6月と平成10年6月に実施した。対象者は筑波大学共通体育を履修している体育専門学群以外の1年生1,244名（平成9年度：男子324名、女子263名、平成10年度：男子448名、女子209名）である。なお、使用したアンケート用紙は付録に示した。

2) 調査項目

普段の大学への交通手段及び所要時間、身長、体重とその満足度、持っている調理用具、よく作る料理名、外食でよく食べる料理名、1週間の夕食における自炊と外食の割合、朝食内容と欠食率である。

3. 結果と考察

1) 普段の大学への交通手段及び所要時間

図1, 2には通学の交通手段を示した。またその際の所要時間を表1に示した。ほとんどの学生が通学手段として自転車を利用していた。対象者が1年生ということもあり、1年生のうちは学内にある学生宿舎に居住するという者が多く⁷⁾、特徴的なのは、表1からも分かるように自転車で10分弱程度しか通学に時間を要さないことである。徒歩だけで通学する学生はごくわずかであった(0.6—1.4%)。実家から車や電車、バスなどを利用して通学す

る学生も若干ではあるがみられた(1.5—2.4%)。特に電車、バスを利用している学生は表1からも分かるように、NHKの行なった世論調査での大学生が通学に要する時間の平均である1時間33分という結果⁹⁾と近い値が出ている。

2) 身長、体重とその満足度

図3および図4には身長と体重を示した。男子の平均身長は171.1cm、平均体重は61.8kg、女子の平均身長は159.4cm、平均体重は51.3kgであった。国民栄養調査の結果では⁹⁾、男子の平均身長は171.3cmで筑波大生の平均とほとんど変わらなかったが平均体重は64.7kgと筑波大生の平均の方が3kgも軽かった。一方、女子の平均身長は158.1cm、平均体重は51.2kgとどちらも大きな差はみられなかった。

一般的にヒトの理想体重は身長(単位:cm)から100を引いた数字に0.9を掛けたものといわれている。ほとんどの学生がこれで求めた体重と同じか下回っているにもかかわらず、図5で示したように、男子では計34.0%、女子では計79.4%もの学生が痩せたいと思っていることが分かった。これは平成4年に行われた調査⁹⁾と同じような割合であった(男子32.5%、女子74.9%)。また、今の体重で満足している学生は男子で44.2%、女子は19.1%（平成4年度：男子40.6%、女子23.5%）、太ることを希望している学生は男子で21.8%、女子ではわずか1.5%（平成4年度：男子26.9%、女子1.6%）であった。このように、この年代の学生、特に女子で痩せたいという願望を持つ者が非常に多いことは変わらなかった。

3) 持っている調理用具

図6～9に調理用具の所持率を示したが、平成9年と平成10年との間に大きな変化はみられなかった。1つ1つの調理用具に注目していくと、冷蔵庫の所持率が図6～9のすべてにおいて1番高かった(男子99%、女子99—100%)。このことからほとんどすべての学生が冷蔵庫を所持していることが分かる。しか

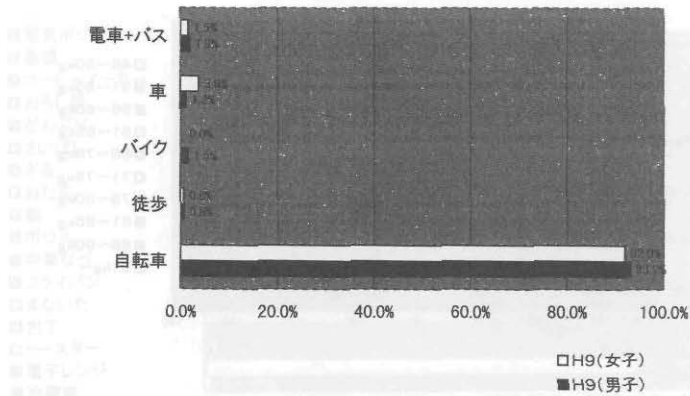


図1 通学の交通手段 (H9)

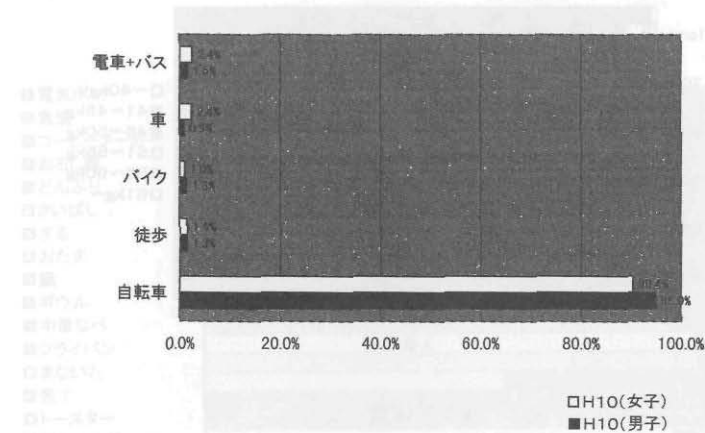


図2 通学の交通手段 (H10)

し、中華なべ (男子7-12%, 女子5-7%) とコーヒーメーカー (男子3-9%, 女子2-7%) の所持率は低い数値となった。冷蔵庫、中華なべ、コーヒーメーカー以外の調理用具では男女間に幾分差がみられた。女子では90%以上の所持率であった炊飯器、電子レンジ、包丁、まな板が、男子においては65-85%内ではばらつき、女子では80%以上だったポウル、おたま、ざるの所持率が男子では50%前後にまで落ち込んでいた。

今回の調査ではこれらの所持している調理用具を実際に使用しているかの質問をしな

表1 通学の交通手段及び所要時間 (単位:分)

	男子		女子	
	H9	H10	H9	H10
自転車	8.5	9.2	7.2	8.4
徒歩	27.5	10.8	7.5	23.3
バイク	6.8	5.5	-	7.5
車	21.3	36.0	25.0	18.0
電車+バス	89.2	103.9	72.5	80.0

ったため、何が本当に使用されているか、また何が必需品の調理用具であるかを示すこともできなかった。一方、表2, 3は図6~9で示されている調理用具以外で持っているもの

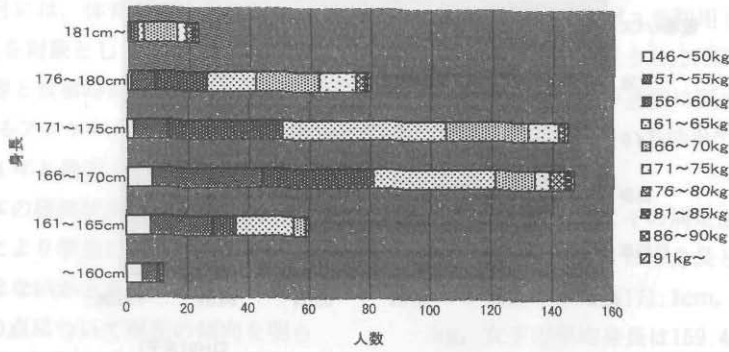


図3 身長と体重 (男子)

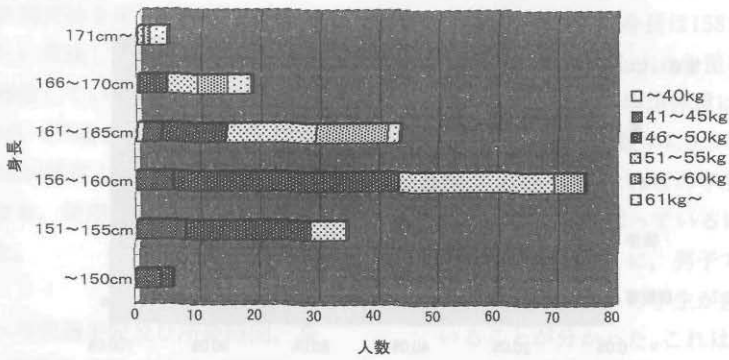


図4 身長と体重 (女子)

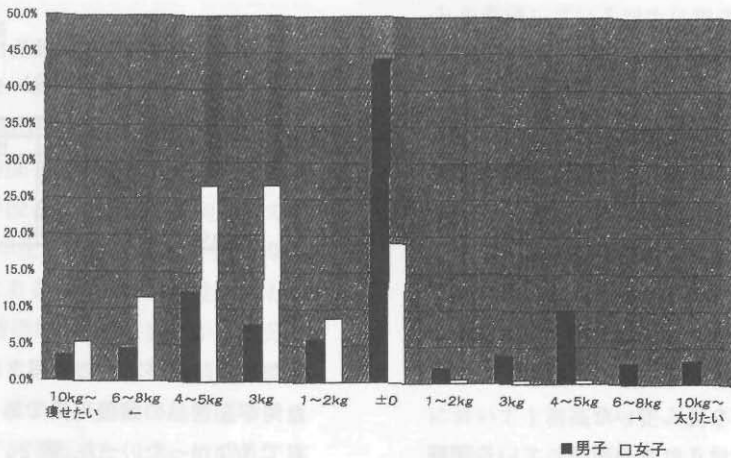


図5 現在の体重と希望体重との差

- 電気ポット
- 急須
- コーヒーメーカー
- おろし器
- どんぶり
- さいばし
- ざる
- おたま
- 鍋
- ポウル
- 中華なべ
- フライパン
- まないた
- 包丁
- トースター
- 電子レンジ
- 冷蔵庫
- 炊飯器

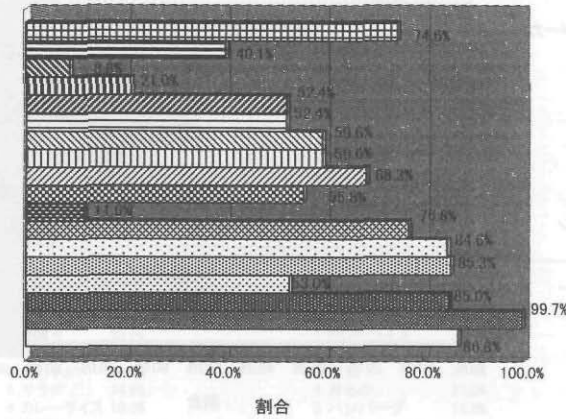


図6 持っている調理用具 (H9男子)

- 電気ポット
- 急須
- コーヒーメーカー
- おろし器
- どんぶり
- さいばし
- ざる
- おたま
- 鍋
- ポウル
- 中華なべ
- フライパン
- まないた
- 包丁
- トースター
- 電子レンジ
- 冷蔵庫
- 炊飯器

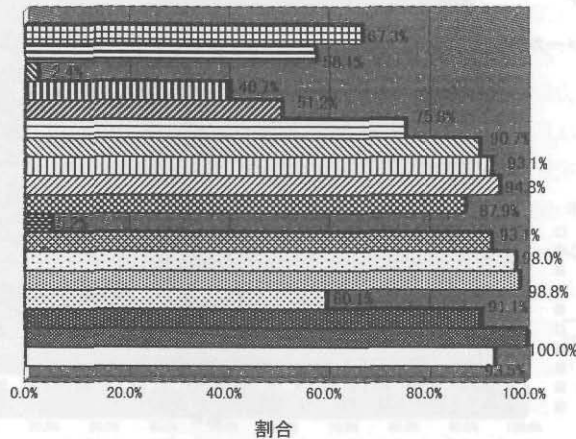


図7 持っている調理用具 (H9女子)

を記入させ、その中で回答数の多いものから上位5つまでを示したものである。

なお、平成4年度の調査では、この質問項目はなかったため、現在との比較はできなかった。

4) よく作る料理

表4によく作る料理で回答数の多かった上位10品目を示した。平成9年および10年の男女ともに野菜炒めが1番よく作られており、平成4年に行われた調査⁹⁾の結果でも男子では

カレーライスについて2位、女子では1位であった。男子ではパスタ、カレーライス、チャーハン、ラーメン、焼きそばが、女子ではパスタ、煮物、肉じゃが、サラダ、カレーライスなどが上位を占めた。男女間の違いとしては、男子で上位にきているラーメンや焼きそばなど手軽に作れる麺類が女子では10位以内に入っていないことが、女子では上位に入っていた煮物や肉じゃがなどの一見手が込んでいると思われがちな料理が男子ではほと

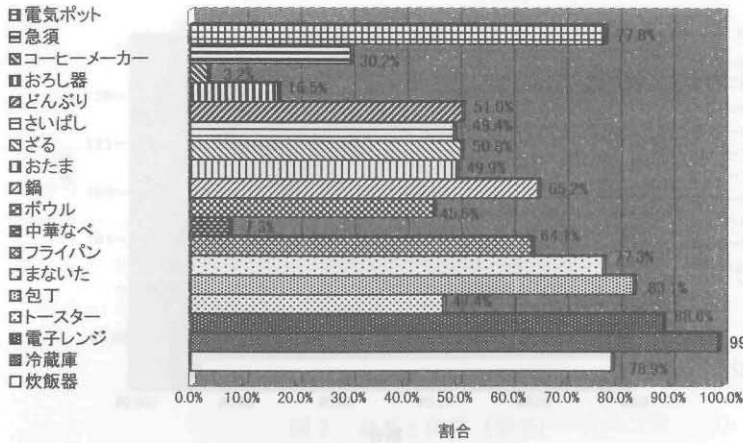


図8 持っている調理用具 (H10男子)

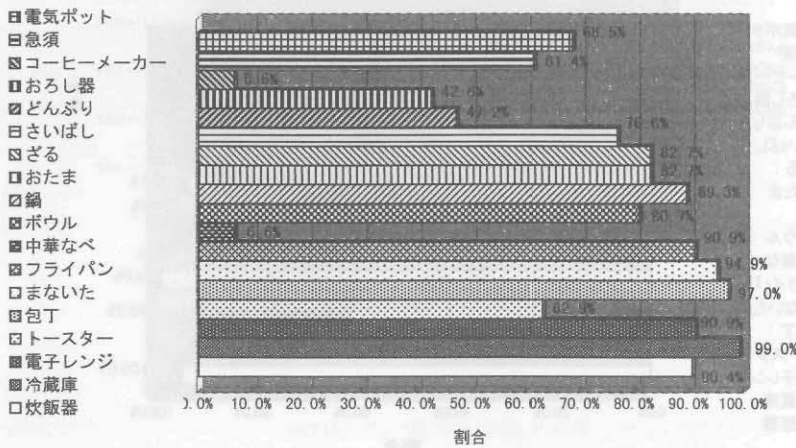


図9 持っている調理用具 (H10女子)

表2 持っている調理用具, その他 (H9)
(単位: 人)

男子		女子	
1 やかん	8	1 フライ返し	22
2 フライ返し	7	2 皮むき器	13
3 ネットプレート	4	3 計量カップ	11
4 皮むき器	3	4 計量スプーン	7
5 電磁調理器	3	5 ネットプレート	6
		5 電磁調理器	6
		5 やかん	6

表3 持っている調理用具, その他 (H10)
(単位: 人)

男子		女子	
1 ネットプレート	12	1 フライ返し	12
2 やかん	7	2 泡立て器	7
3 フライ返し	6	3 計量カップ	6
3 皮むき器	6	3 ネットプレート	6
5 電磁調理器	3	5 やかん	5
		5 皮むき器	5

表4 よく作る料理

H9男子		H9女子	
1 野菜炒め	31.5%	1 野菜炒め	37.6%
2 カレーライス	18.5%	2 パスタ	24.7%
3 チャーハン	16.7%	3 煮物	17.9%
4 パスタ	15.4%	4 サラダ	16.7%
5 やきそば	11.4%	5 肉じゃが	14.1%
5 ラーメン	11.4%	6 カレーライス	12.5%
7 味噌汁	6.8%	7 シチュー	11.8%
8 目玉焼き	5.6%	8 味噌汁	9.9%
8 サラダ	5.6%	9 チャーハン	8.4%
8 焼肉	5.6%	10 野菜スープ	6.5%

H10男子		H10女子	
1 野菜炒め	28.1%	1 野菜炒め	34.4%
2 パスタ	19.4%	2 パスタ	30.1%
3 カレーライス	17.6%	3 煮物	17.7%
4 チャーハン	15.4%	4 肉じゃが	16.3%
5 ラーメン	14.5%	5 サラダ	14.8%
6 やきそば	10.3%	6 カレーライス	10.0%
7 麻婆豆腐	5.8%	7 味噌汁	9.6%
8 味噌汁	5.6%	8 シチュー	8.1%
9 焼肉	5.4%	9 チャーハン	7.7%
10 卵焼き	4.7%	10 野菜スープ	6.7%

*回答数の多かった上位10品目を示している
*1人3品以内で記入

表5 外食でよく食べる料理

H9男子		H9女子	
1 カレーライス	29.9%	1 パスタ	23.6%
2 ラーメン	25.9%	2 定食	14.4%
3 丼もの	24.1%	3 カレーライス	14.1%
4 定食	18.8%	4 うどん	12.9%
5 とんかつ	12.3%	5 ハンバーガー	12.2%
6 ハンバーガー	9.3%	5 グラタン	12.2%
7 そば	9.0%	7 丼もの	10.6%
8 からあげ	8.6%	8 ラーメン	10.3%
9 うどん	8.0%	9 ドリア	7.2%
10 焼肉	7.1%	10 からあげ	4.2%
		10 ハンバーガー	4.2%
		10 そば	4.2%

H10男子		H10女子	
1 カレーライス	28.8%	1 パスタ	28.7%
2 ラーメン	28.3%	2 ハンバーガー	17.2%
3 定食	21.4%	3 丼もの	13.9%
4 丼もの	21.0%	4 カレーライス	12.4%
5 ハンバーガー	13.6%	5 うどん	11.5%
6 とんかつ	10.3%	6 定食	11.0%
7 うどん	7.1%	6 ラーメン	11.0%
8 焼肉	6.5%	8 ドリア	10.0%
9 そば	6.0%	9 グラタン	8.1%
10 からあげ	5.8%	10 ハンバーガー	6.7%

*回答数の多かった上位10品目を示している
*1人3品以内で記入

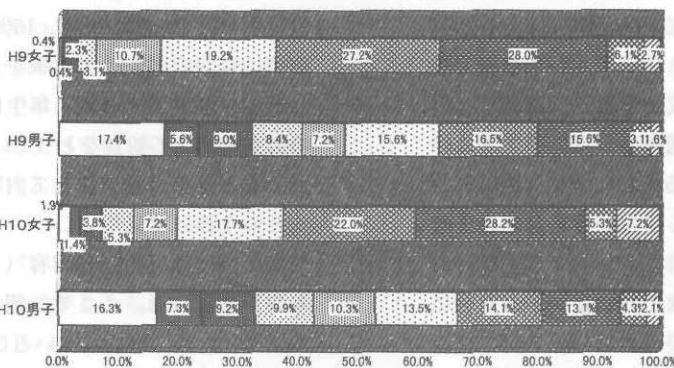


図10 1週間の夕食における自炊と外食の割合

んどみられなかったことなどが挙げられる。平成4年に行われた調査の結果と同様に今回のアンケートでも、手軽に食事を済ませようとする傾向があることがわかった。そのため、栄養面に気を遣った食事がされているかどうかを把握することが今後の課題である。

5) 外食でよく食べる料理

表5には外食でよく食べる料理の回答数が多かった上位10品目を示した。男子は、表4で示したよく作る料理でも平成9年2位、平

成10年2位だったカレーライスが1位に、女子でも表4では平成9年および10年で2位だったパスタが1位であった。このことから、宿舎やアパートでも外食先でも同じようなものを食べている学生が多いことが分かる。また、カレーライスやパスタ以外でもラーメン、そば、うどん、丼ものなど一品物が多かった。平成4年に行われた調査⁹⁾でも同じような結果が得られており、異なった経済状況下においても学生の食事内容はほとんど変わらない

ということが分かった。また、男子ではとんかつ、からあげ、焼肉などボリュームのある肉料理が、女子ではハンバーグ、ドリア、グラタンなどの洋食メニューが多くみられた。バランスのとれた食生活を送るためにもこれらの料理と一緒にサラダを食べるなど、野菜を多く採り入れた食事をするのが望ましいと考えられる。

6) 1週間の夕食における自炊と外食の割合

図10にこのアンケート調査を行なった週の夕食における自炊と外食の割合を示した。平成9年と10年とを比べても男女それぞれほとんど同じような結果が得られた。1週間のすべてが外食だった者の割合は、男子で多く(平成9年度:17.4%,平成10年度:16.3%),女子ではごくわずかであった(平成9年度:0.4%,平成10年度:1.9%)。1週間すべて自炊をしたという学生の割合は、女子で高い数値(平成9年度:28.0%,平成10年度:28.2%)であったのと同時に、男子でも15%前後(平成9年度15.6%,平成10年度:13.1%)という数値がみられた。週に半分以上自炊する学生の割合は男子で約55%,女子では約80%であり、自炊をしている学生が多いということが分かった。

今回の調査では自炊と外食にかかるお金についての質問をしなかったため明らかではないが、外食は自炊に比べてお金がかかるという理由で自炊に取り組む学生が多いのではな

いかと推測される。

7) 朝食内容と欠食率

表6には平日の朝食内容(主として食べたもの)を回答数の多かったもの上位10品目を示した。男女共にパン食の学生の割合が1番高かった(男子37.1%,女子45.5%)。平成4年に行われた調査⁹⁾でも男子は58.3%,女子は50%と高い割合であった。次に多かったごはんでも男女共に20%以上という高い割合であった。コーンフレークも、その手軽さと栄養バランスが充実していると信じられていることから、多くの学生が朝食としていた。一方、朝食抜きの学生の割合は男子で19.4%,女子は6.2%であった。こちらも、平成4年に行われた調査⁹⁾では男子で20%,女子で8%という結果が出ており、今回とほぼ同じであった。厚生省の行なった国民栄養調査によれば、新1年生と同年代である男子および女子の朝食欠食率は、それぞれ33%,15%であり⁹⁾、この数値は今回の調査の欠食率を上回る。このことから、筑波大学の新1年生は、他の同年代の男女に比べて朝食をとっている者が多いが、下で明らかなように決して内容が充実しているというわけではない。

表7には休日の朝食内容(主として食べたもの)を示した。ここで、朝食欠食率が平日に比べて大幅に増加していることが分かる(男子43.1%,女子27.8%)。これは、休日には授業がなく平日より余裕があるため昼過ぎまで

表6 朝食で主に食べたもの(平日)

男子		女子	
1 パン	36.2%	1 パン	45.5%
2 ごはん	20.3%	2 ごはん	23.4%
3 食べない	19.4%	3 コーンフレーク	16.7%
4 コーンフレーク	18.8%	4 食べない	6.2%
5 サンドイッチ	1.3%	5 サラダ	1.9%
5 お茶漬け	1.3%	5 おにぎり	1.9%
7 ヨーグルト	1.1%	5 ヨーグルト	1.9%
8 カロリーメイト	0.9%	5 牛乳のみ	1.9%
9 チャーハン	0.7%	9 オムライス	1.0%
9 パナナ	0.7%	9 サンドイッチ	1.0%
9 ゼリー	0.7%	9 ゼリー	1.0%
総回答数 (複数回答有)	474	総回答数 (複数回答有)	239

表7 朝食で主に食べたもの(休日)

男子		女子	
1 食べない	43.1%	1 パン	41.1%
2 パン	31.0%	2 食べない	27.8%
3 ごはん	14.7%	3 ごはん	17.2%
4 コーンフレーク	9.4%	4 コーンフレーク	8.1%
5 おにぎり	2.0%	5 ヨーグルト	2.9%
6 お茶づけ	1.1%	6 お茶づけ	1.0%
6 サンドイッチ	1.1%	7 カロリーメイト	0.5%
8 カロリーメイト	0.9%	7 ホットケーキ	0.5%
9 ヨーグルト	0.4%	7 サンドイッチ	0.5%
9 ラーメン	0.4%	7 チャーハン	0.5%
9 パスタ	0.4%		
総回答数 (複数回答有)	487	総回答数 (複数回答有)	209

表8 パンの付合わせて食べたもの

平 日			
男 子		女 子	
1 牛乳	38.9%	1 牛乳	49.5%
2 なし	19.8%	2 ヨーグルト	22.1%
3 コーンフレーク	13.0%	3 サラダ	12.6%
4 ヨーグルト	10.5%	4 なし	11.8%
4 コーヒー	10.5%	5 チーズ	10.5%

休 日			
男 子		女 子	
1 牛乳	34.5%	1 牛乳	45.3%
2 なし	23.0%	2 ヨーグルト	22.1%
3 ヨーグルト	12.2%	3 サラダ	14.0%
4 コーヒー	10.1%	3 なし	14.0%
5 コーンフレーク	8.6%	5 コーヒー	9.3%

寝ている、もしくはランチをとるという学生が多いためであると考えられる。

表8および9は主として食べられていたパンとごはんのそれぞれの付け合わせとしてどんなものが食べられているかを調査し、その回答数の多かった上位5つを示したものである。パンもごはんも平日と休日での違いはほとんどみられなかった。パンの付合わせでは牛乳が(男子34—39%、女子45—49%)、ごはんの付け合わせではみそ汁(男子38—45%、女子39—44%)がすべてにおいて1位になっていた。またごはん食でもかなり多くの学生が牛乳を飲んでいることが分かった。さらに目立ったのは、パン食ではパンしか食べないという学生が男子で多くみられたこと(男子19—23%、女子11—14%)、ヨーグルトを食べる学生が女子で多くみられたこと(男子10%、女子22%)などである。またごはん食では納豆(男子30—34%、女子33—36%)とたまご(男子25—21%、女子31—36%)を食べている学生が多かった。ヨーグルトおよび納豆など、調理する必要のない食品は、なにかとあわただしい朝食に最適であり、今後より多くの学生に採り入れられることが望まれる。

4. ま と め

本研究の目的は、平成9および10年度に筑波大学に入学した新1年生の食生活の傾向を、平成4年に行われた調査との比較もふまえて

表9 ごはんの付合わせて食べたもの

平 日			
男 子		女 子	
1 みそ汁	38.5%	1 みそ汁	44.7%
2 納豆	34.7%	2 納豆	36.2%
3 牛乳	23.2%	3 たまご	31.9%
4 たまご	21.1%	4 サラダ	17.0%
5 ふりかけ	11.6%	5 牛乳	12.8%

休 日			
男 子		女 子	
1 みそ汁	45.5%	1 みそ汁	38.9%
2 納豆	30.3%	2 たまご	36.1%
3 牛乳	21.2%	3 納豆	33.3%
4 たまご	15.2%	4 牛乳	30.6%
5 ふりかけ	10.6%	5 さかな	25.0%
5 サラダ	10.6%		

*回答数の多かった上位5品目を示している
*複数回答あり

明らかにすることであった。平成9年6月および平成10年6月に筑波大学に入学した新1年生のうち、合計1,244名を対象に通学手段および時間、自炊と外食の内容と頻度、朝食内容などをアンケート調査した。

その結果、1) 95%以上の学生が学内にいる宿舎で生活しているため通学時間の平均が10.2分と短いこと、2) 現在の体重に満足していない学生が特に女子で多いこと(男子57%、女子82%)、3) 夕食を週に半分以上自炊する学生の割合が多いこと(男子55—56%、女子75—85%)、4) パンを朝食とする学生が多いこと(男子37%、女子45%)、5) 筑波大生の朝食欠食率は同年代の男女と比べて低いこと、7) 朝食の欠食率が平日(男子19%、女子6%)より休日(男子43%、女子28%)で高いことなどが明らかになった。

前回(平成4年)の調査と比較をしたところ、よく作る料理、外食でよく食べる料理、朝食内容および欠食率のすべてにおいて、大きな違いはみられなかった。一方、日本の経済状況の悪化から、筑波大生の生活費の低下が明らかになっている⁷⁾。なぜ経済状況が変わってもこれらが変わらなかったのかには次のことが考えられる。1) 1年生については、生活状況が平成4年と平成9年および10年ではあまり変わらない、2) 入学時の親からの送金

がまだ残っている。これが本当かどうかは今後の課題である。

謝 辞

資料整理に協力してくれた、体育専門学群4年生宮部夏美さんに深く感謝致します。

参考文献

- 1) 厚生省保健医療局健康増進栄養課 監修：国民栄養の現状（平成5年国民栄養調査成績），第一出版，1995年。
- 2) 中尾雅子，難波光江，新長章典：女子学生の調理の知識と技術に関する意識調査，山陽女子短期大学研究紀要20巻：13-18，1994年。
- 3) 柚木美保，太田美穂，加地由民子，和辻敏子：女子短大生の調理教育における研究—調理手順について—，甲子園短期大学紀要12巻：15-24，1993年。
- 4) 高橋寿美子：植物専攻生の食に関する意

識調査—包丁の扱い方に関する一考察—，盛岡大学短期大学部紀要5巻：117-133，1995年。

- 5) 中林みどり：本学学生の調理実態調査，【教育学部紀要】文教大学教育学部2巻：143-148，1994年。
- 6) 會田 宏，進藤正雄，齊藤隆志，齊藤慎一：大学一年生のライフスタイルに関する研究—1992年6月の食生活調査から—，筑波大学体育研究15巻：1-10，1993年。
- 7) 筑波大学学生担当教官室 編：筑波大学学生生活実態調査報告書 平成10年度，筑波大学学生部，1999年。
- 8) NHK 世論調査部 編，図説 日本人の生活時間 1995年，日本放送出版協会，1996年。
- 9) 厚生省保健医療局健康増進栄養課 監修：身体状況・食生活状況（平成9年国民栄養調査成績），第一出版，1999年。

あなたの食生活に関する調査

- 1 普段の大学への交通手段及び所要時間：
 1) 自転車(分)、2) 徒歩(分)、3) その他(; 分)
- 2 身長: cm、体重 kg、
 1) もっと太りたい(kg) 2) ちょうどよい 3) もう少しやせたい(kg)
- 3 調理用具など(もっているものに丸) (箸、皿、ご飯茶碗、ナイフ、スプーンなどはあるとする)
 1) 炊飯器、2) 冷蔵庫、3) 電子レンジ(オープンも含む)、4) トースター、5) 包丁
 6) まないた、7) フライパン、8) 中華鍋、9) ポウル、10) 鍋、11) おたま、12) ざる、
 13) さいばし、14) (中華)どんぶり、15) おろし器、16) コーヒーメーカー、17) 急須
 18) 電気ポット、19) その他()
- 4 よく作る料理名を3つ以内書いてください()
- 5 外食でよく食べる料理を3つ以内書いてください()
- 6 この1週間の夕食の自炊と外食の割合は、自炊()日、外食()日であった。
- 7 下の左欄にはウイークデイの典型的な1日の、右欄には休日の食生活について、朝起きてから夜寝るまで、どこでどんなものを食べたか、飲み物やおやつを含めて記入してください。まず何時ごろどんなことをしていたかを思い出して、それから食べたものを思い出してください。

授業のある日(月 日)			休日(月 日)		
時間	行動	献立名(食品名、分量など)	時間	行動	献立名(食品名、分量など)
05			05		
06			06		
07			07		
08			08		
09			09		
10			10		
11			11		
12			12		
13			13		
14			14		
15			15		
16			16		
17			17		
18			18		
19			19		
20			20		
21			21		
22			22		
23			23		
24			24		
01			01		
02			02		
03			03		
04			04		

	学群	学類	年 学籍番号
氏名	体育受講種目		